共通科目「自己理解（キャリアデザイン）」の取組みについて

松坂暢浩（山形大学 学術研究院（学士課程基盤教育機構））

１．はじめに

この度、名誉ある平成 29 年度のベストティーチャー賞をいただき、学生および協力いただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げたい。本稿では、受賞対象になった「自己理解（キャリアデザイン）」の取組み内容について、平成 25 年度のベストティーチャー賞受賞記念特別稿（松坂 2014）および松坂他（2016）で報告した内容に加筆修正した形で報告する。

２．「自己理解（キャリアデザイン）」について

「自己理解（キャリアデザイン）」は、基盤共通教育「共通科目」の１つである「キャリアデザイン」のなかで、前期に開講されている授業である。

共通科目「キャリアデザイン」は、卒業後の将来やこれからの大学生活を有意義なものにしていく上で、「いかに生きるか」という問いかけを通して、自らのキャリアについて考え、それを言葉にし、行動に移すことができる力を養うことを目的としている。

そのなかで「自己理解（キャリアデザイン）」は、「自己理解」をキーワードに、肯定的に自己を捉えた上で自分らしさについて理解を深めることを目的としている。自己理解の基本は価値・動機・能力などであるが、これらを扱う概念として E.H. シャイン（2003）の「内的キャリア」がベースになっている。また、社会で求められる能力として挙げられる「コミュニケーションスキル」を高める取組みも併せて行っている。全 15 回のスケジュールは。以下の通りである。

第１回　オリエンテーション（概要と進め方の説明）
第２回　キャリアとは何か？（キャリアおよびキャリアデザインとは何かについて解説）
第 3～5 回　コミュニケーショントレーニング（聴く、話す上での基本を身に付ける）
第６回　中間の振り返り（これまでの復習）
第 7～12 回　自分を知る（自分の持ち味、価値観、適性等について考える）
第 13 回　中間の振り返り（これまでの復習）
第 14 回　キャリアデザインガイダンス（キャリア教育担当教員によるオムニバス講義）
第 15 回　まとめ（授業全体を振り返り）

また本授業は、多くの学生が履修できるよう、週４回同じ内容で開講している。

平成 29 年度の履修学生は、合計 922 名で、１授業あたり 200 名を超える大人数授業となった。また、授業の運営は、平成 28 年度まで教員２名で行っていたが、平成 29 年度は、教員１名で行う必要があった。

３．「自己理解（キャリアデザイン）」の運営上の工夫

本授業では、大人数授業を運営するために、6 つ工夫を行った。1 つ目は「グループ分け」。2 つ目は「授業進行のパターン化」。3 つ目は「授業のルール設定」。4 つ目は「グループワークの工夫」。5 つ目は「学習管理システムの活用」。6 つ目は「学生へのフィードバック」。7 つ目は「アシスタント学生による授業補助」である。以下 7 つの取組内容について詳細を紹介する。

１）グループ分け

仲の良い学生同士で固まらないように、また、性別や学部の違う学生同士の交流できるように、教員が、ランダムにグループ分けを行った。グループ分は、1 回目が第 3 回の授業、2 回目は第 7 回の授業の計 2 回実施した。理由は、第 3 回から 6 回までコミュニケーションの基本を学ぶ内容になっており、まずグループ活動に慣れてもらうためであった。そして、第 7 回以降は、これまでに学んだコミュニケーションの基本を活かし、新しいグループで活動する流れにした。また、グループ分けすることで、知らない者同士で着席するため不要な雑談が減る効果があった。

２）授業進行のパターン化

大人数でも、学生が授業のなかで次に何を行うかが分かれば、自ら行動できるようになると考えた。そこで、毎授業の流れを 4 つのステップに分けて、それぞれ時間の目安を示し、次に何を行うかを意識しながら、主体的に取組めるようにした。まず、ステップ 1 が「振り返る」（15 分）である。教員から前回の授業内容のポイントを改めて解説し、その後グループになり、前回の内容や学びを思い出してもらうために、振り返りを行った。また、前回学生からあった疑問や質問などについて、この場で回答を行った。次に、ステップ 2 が「考える」（30 分）である。各回のテーマと内容について教員が説明し、その後、配布したワークシートを使用し、個人ワークを行った。そして、ステップ 3 は「分かち合う」（30 分）である。グループになり、個人ワークで記入した内容をお互いに発表し、感想

の共有を行った。その後、与えられたテーマについて、グループで話し合う時間を設け、様々な他者の意見を聞き、新たな学びや気づきが得られるようにした。最後のステップ 4 が「振り返る」(15 分) である。教員が授業のまとめを行い、その後、学生が配布したリフレクションシートに本日の学びや気づきを記入する流れで行った。

3）授業のルール設定

授業の妨げになる行為に注意する機会を減らし、また社会に出る上で必要なマナーやルールを守る意識を高めることができように、履修上守るべき最低限のルールを設定した。ただし、このルールは教員からの一方的な押しつけで行わなかった。まず、一度ルールを提示し、学生から意見を求め、必要があれば修正を加えた。このやり取りは「ウェブクラス」に意見や要望を提出できる項目を設けて行った。

4）グループワークの工夫

グループワークが、大教室 (階段教室) の固定式の机や椅子で実施できるように、1 グループ 6 名のメンバー全員が、その場で席を立ち、お互いが向き合ってグループワークを行った。また、この方法を取ることで、グループワークの際に立ち、終了後に座るといった動きをつけることで、授業にメリハリがついた。また、履修人数によっては、1 グループ 4 名とし、着席した状態でもグループワークがしやすいように工夫した。

5) 学習管理システムの活用

本学で導入している学習管理システム「ウェブクラス」を活用した。授業で使用するスライドや資料の共有や、課題の提出を全て「ウェブクラス」で行った。これにより、以前は、紙で印刷し、配布や回収をしていたが、その手間を省くことができた。また、メッセージ機能を使用することで、学生に直接連絡ができ、授業に関する案内や気になる学生へのフォローができるメリットがあった。

6) 学生へのフィードバック

大人数授業であると、個々人に対してのフォローが難しい面があった。しかし、大人数のなかでも学生一人ひとりが気にかけてくれていると感じてもらうことが、学生との信頼関係構築に繋がると考えた。そこで、授業終了後に「ウェブクラス」から提出してもらう課題に対して、気教員がコメントを記入し、返却をした。また、授業の始めに共有したいコメントを紹介し、学生の解釈が違っていた内容の補足説明や質問へのフィードバックも合わせて行った。

7) アシスタント学生による授業補助

前年履修した学生を AA（アドミニストレイティブアシスタント）として雇用し、授業補助を依頼した。主に、グループワーク時に、前年の経験を活かし、うまく活動できないグループへのフォローやサポートを行ってもらった。また、彼らの視点から授業運営に関する改善点などのアドバイスをもらい、よりスムーズな授業運営を行うことができた。

4.「自己理解（キャリアデザイン)」のアンケート結果

授業の最終回に、履修学生に対して、独自に作成したアンケートを実施した。回答者は 824 名（回答率 89.4%）であった。

設問は、以下の 5 点である。

①授業で学んだ「コミュニケーション能力」(特に聴く、話す力、意見をまとめる力) の基本を意識して、他者とやり取りできるようになったか。

②授業で深めた自己理解の内容を踏まえて、これからの大学生活をどのように過ごしていくか考えられるようになったか。

③この授業を通して、自分に自信が持てるようになったか。

④この授業を通して、行動や考え方に変化があったか。

⑤この授業を受講して、全体として満足できたか。

上記 5 点について、「全くその通り」から「全くそうでない」の 5 件法で自己評価を求めた。また、理由については、自由記述の回答を求めた。以下 5 点の結果について詳細を報告する。

①コミュニケーション能力については 97.0%（全くその通り、ややその通りの合計) が向上したと回答していた。理由のコメントには、*「グループワークやペアワークを通して、コミュニケーション能力や自分への理解を実践的に学べたのが大変ためになったから」、「私は人とコミュニケーションを取るのが苦手だったのですが、この授業を通して、人の話を聞く時の態度や、人に話をする時に気をつけることが分かり、前よりもコミュニケーションを取ることに苦手意識がなくなったから」*などがあった。本授業は、前半にコミュニケーションの基本を学び、その後、学びを活かしてグループワークに取組む流れで、段階的にコミュニケーション能力を高めていくように工夫した。この取組みによって、コミュニケーションをうまく取れるようになったと実感でき、また苦手意識の克服につながったと考える。

②大学生活の過ごし方を考えられるようになったかについては 95.4%（全くその通り、ややその通りの合計）ができたと回答していた。理由のコメントには、*「自分とはどういう人間なのかということを理解することができ、これからの大学生活に役立てることができたから」、「授業での気づきが、これからの大学生活をより良い方向に持っていく材料になったから」*などがあった。通常の授業や日常生活で考える機会の少ない、これらかの大学生活の過ごし方を考える時間を、本授業で持てたことが影響していると考える。

③自信については 92.2%（全くその通り、ややその通りの合計）が自分自身に自信が持てるようになったと回答していた。理由のコメントには、*「自分の気づかなかった部分を知ることができたり、短所だと思っていた所も*

*捉え方を変えることができたり、自分の良さになることを知り、自分に自信を持つことができるようになったから」、「キャリアデザインの授業ではみんなが受け入れてくれることが分かっているので安心して自分を表現でき、自信に繋がったからです。」*などがあった。本授業では、第 7 回以降に自己理解を深める内容の授業を行った。また、グループワークのなかで、他者からのフィードバックをもらい、自分を肯定的に捉え直すことを行った。このような取組みを通して、自分らしさを認識できたことで、自信につながったと考える。

④履修後の行動や考え方については 94.5%（全くその通り、ややその通りの合計）が自分自身の変化を感じたと回答していた。理由のコメントには、*「自分の行動を一つ変えるだけで相手の自分の印象は大きく変化するということを学んだから」、「初対面の人と、あまり話すことができなかった私が、自然に自分から他人に話しかけるようになったから」、「なかなか自分の考えを主張できないでいたが、この授業を受けていくなかで、変化があった。徐々に、自分の意見を言うことが出来るようになり、自分から人とコミュニケーションを取ることができるようになったから」*などがあった。学生自身が、履修前の自分と比べて、特にコミュニケーションの点において、向上していると実感ができたことで、変化を感じられたと考える。

⑤満足度について 94.1%（全くその通り、ややその通りの合計））が授業に満足できたと回答していた。理由のコメントには、*「キャリアデザインの他にこのような他学部の人と交流する授業は少ないので、とても貴重な経験をすることができたから」、「大学に入って直ぐに様々な人との新しい出会いや自分を見つめ直し理解することができるとても良い機会になったから」*などがあった。本授業のなかで、様々な学部の学生と交流できる点が、満足度の高さにつながったと考える。

以上のことから、学生の成長につながる、満足度の高い授業運営ができたことを確認できた。

5. 今後の課題

最後に今後の課題について 2 点挙げたい。

1 つ目に、今回一人で 4 つの授業を担当したが、今後、さらに履修学生の人数が増えた場合、他の教員に協力を依頼する必要が出てくる可能性がある。そのため、初めてキャリア教育を担当する教員でも運営できるよう、授業運営のマニュアル作成に取組んでいきたい。

2 つ目に、これまで、学生からの要望を踏まえて、授業改善に取組んできたが、アンケートのコメントのなかに、授業に対する不満（グループワークに対する意見や意欲の低い学生の問題など）が少数であるが見られた。今後さらなる授業改善に向け、学生の意見を参考にしていきたい。

引用・参考文献

松坂暢浩（2014）「「キャリア教育」への挑戦 ～基盤教育教養科目「キャリアデザインⅠ、Ⅱ」の取り組み（事例報告）～」，『山形大学高等教育研究年報（山形大学高等教育研究企画センター紀要）』，（8），pp. 16-19.

松坂暢浩・小倉泰典・粟野武文（2016）「多人数で取組めるキャリア教育授業を目指した実践報告」，山形大学高等教育研究年報（山形大学高等教育研究企画センター紀要），（10），pp. 48-51.